

みなとのニュース

苫小牧港東港区浜厚真地区で、 物流効率化等に資する岸壁整備に着手します

北海道開発局 室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

苫小牧港管理組合と室蘭開発建設部では、苫小牧港東港区浜厚真地区において、新たな岸壁整備に着手することから、令和5年1月28日に着工式典を開催しました。

1. はじめに

苫小牧港は、北海道内の港湾取扱貨物量の5割を占め、内貿取扱貨物量が21年連続日本一と背後圏に立地する数多くの企業の生産活動や住民の生活を支える物流拠点として、重要な役割を果たしています。

東港区は、道内の国際コンテナ貨物の約7割を扱うコンテナターミナルや、日本海側の港湾と結ぶフェリーターミナルなど、北海道の流通拠点としての重要な機能を有するほか、地域内には、石炭火力発電所や石油備蓄基地、コールセンターなどのエネルギー関連企業、自動車やリサイクル関連の企業などが立地しています。

2. 「苫小牧港東港区浜厚真地区複合 一貫輸送ターミナル」

現在、東港区の浜厚真地区周文ふ頭では、1つの岸壁に2つのフェリー航路が就航するとともに、砂・砂利などのバルク貨物を取り扱っています。このため、バス利用の時間的制約が大きく、全道各地から運び込まれる貨物がフェリーの出航時間に間に合わない場合には、青函航路を利用するために遠方の函館港への輸送が余儀なくされるなど、トラックドライバーの負担が大きくなっています(図1)。

現状と課題(農産物輸送の事例)

○秋田・新潟航路を利用して関東向けに出荷される農水産物は、集荷時間が遅れ19:30の出港時刻に間に合わない場合は、函館港を利用し、青森港行きのフェリーを利用している。

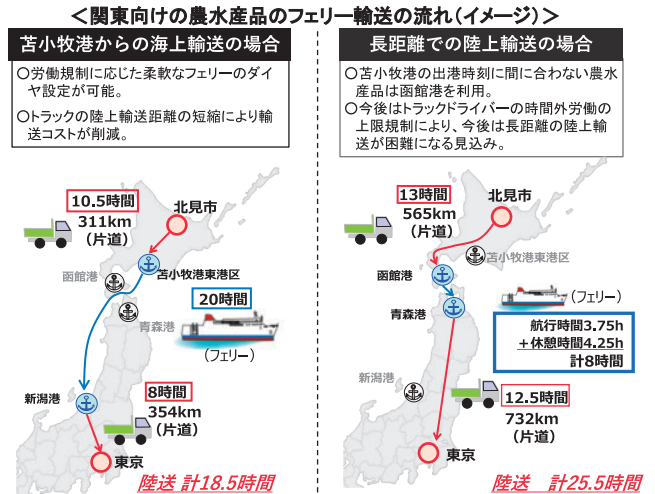


図1 関東向け農水産物のフェリー輸送の流れ

○今後、労働基準法の改正によりトラックドライバーの労働時間の規制が厳しくなることから、道東・道北から函館港のフェリー航路を利用した長距離の陸上輸送が困難になる。このため、秋田・新潟航路のダイヤを変更しなければ貨物需要に対応できなくなるが、現状、後発の敦賀航路等も利用していることから、柔軟なダイヤ設定が困難な状況である。

また、平成30年の北海道胆振東部地震では、東港区で緊急物資輸送用の岸壁が不足し、災害支援船の受け入れ調整が難航した事例がありました。

こうしたことから、トラックドライバーの労働時間短縮や大規模地震災害時に物資や避難者を運ぶ船舶が確実に接岸できる耐震強化岸壁の整備に着手することになりました。

本事業で整備する施設は、水深9m、延長270mの耐震強化岸壁、水深9m泊地、港湾施設用地、ふ頭用地からなり、事業期間は令和4年度から令和9年度までの5年間で予定しています(図2、3)。

3. 着工式典

式典の数日前までは、低気圧の発達によりフェリーの欠航や遅延が生じるような悪天候でしたが、当日は好天に恵まれ、堀井学衆議院議員、山岡達丸衆議院議員、鈴木宗男参議院議員をはじめ、約70人の関係者にご参列を頂いた中での開催となりました。

室蘭開発建設部長の式辞の後、国土交通省港湾局長、岩倉博文苫小牧市長からの挨拶、ご来賓の方々からの祝辞を頂き、最後にくす玉の開披で着工をお祝いしました(写真1)。

式典後は、苫小牧港湾事務所長から、現地着手した海上地盤改良工事の状況について、説明を行いました。

4. 完成に向け

新たな岸壁の整備には、柔軟なフェリーダイヤの設定による道内物流の効率化や労働環境の改善や、発生が懸念されている日本海溝・千島海溝の巨大地震など大規模地震への備えとして、地域から大きな期待が寄せられていることから、一日も早い完成を目指し取り組んでいきたいと考えています。

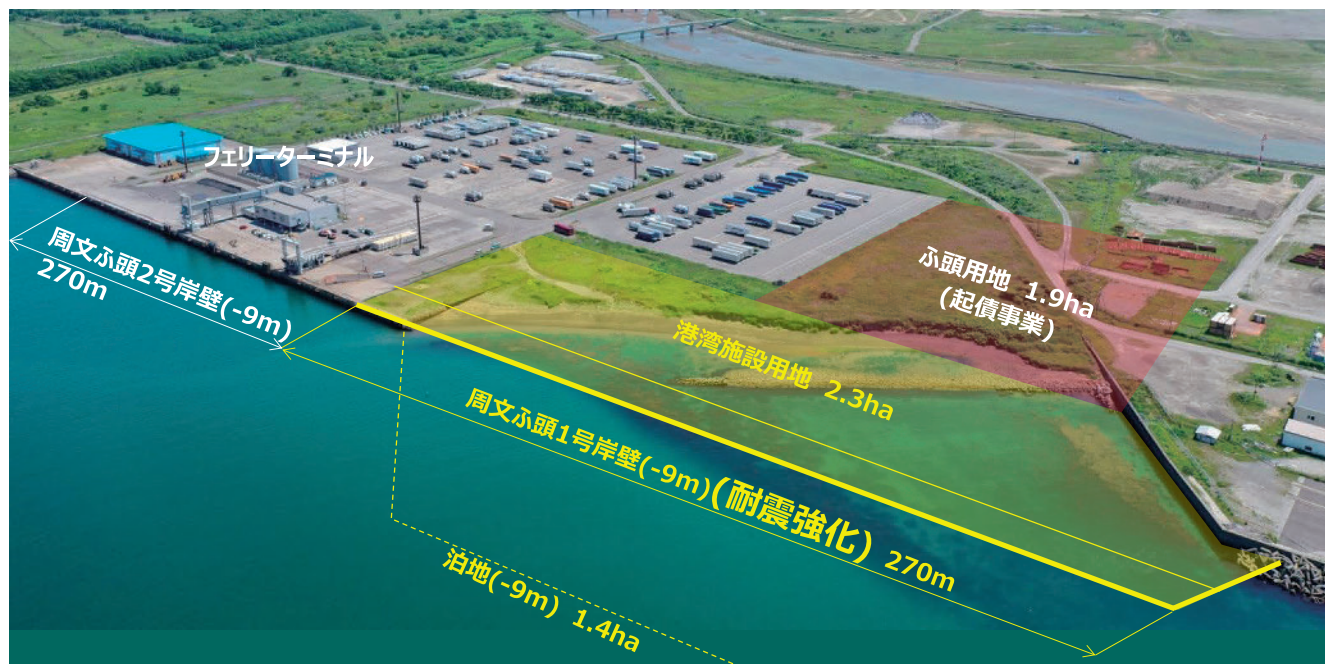


図2 事業のイメージ



図3 完成イメージ



写真1 着工式典の状況

臼尻漁港臨港道路の整備を進めています

北海道開発局 函館開発建設部 函館港湾事務所

臼尻漁港の概要

臼尻漁港を含む南茅部地域は、北海道における大規模網漁業発祥の地であるとともに、我が国初のコンブ養殖事業に成功するなど、歴史と伝統の息づいた地域です。現在の漁業形態はコンブ(採藻・養殖)魚を中心に、定置網、刺し網漁業等を組み合わせた漁業形態で、コ

ンブ、ぶり、まいわし、さば等が主要魚種となっておりますが、ここ最近はいか釣り外来船利用が大きく変動している状況です。

また、平成11年にはカモメドーム、平成13年には人工地盤の整備等、就労環境改善や衛生管理の向上に対して比較的早い時期から取り組まれてきました。